

【講演】神奈川県合同輸血療法委員会の現状について

演者：神奈川県赤十字血液センター

所長 稲葉 頌一

神奈川県合同輸血療法委員会は平成 16 年に第 1 回を開催し、今年 5 回目を終えた。第 2 回からは厚労省からの支援を得ることができるようになり、本年まで続いている。この委員会の設置目的は、近隣の同規模の医療機関と輸血使用実態を相互比較することによって適正使用の推進を図り易くすることである。まさに「ヒトの振り見て我が振り直せ。」である。米国では輸血医療は I&A という国による医療監視が行われているが、日本ではより自主性を重視した病院独自の適正化への取り組みが求められている。しかし、具体的に何をすべきなのか各病院の輸血療法委員会に委ねられている。血液成分の使用状況、血液廃棄の実態、保険査定の実態など個別の医療機関では適正なのかどうか把握しづらい部分がある。この問題の解決には医療機関相互の比較が必要であり、県という地方行政単位は数十という単位の医療機関の情報を収集するのに実施し易いサイズといえる。また、アルブミンの適正使用にどう取り組むのかといった、個別医療機関の枠を超えた取り組みにも具体的なイメージを提示することができる。これまでの成果として、血漿交換の FFP 使用量の輸血管管理料反映、輸血管管理料取得病院の増加などをあげることができる。